

## ■ 下肢静脈瘤



もしご自身の足が上の写真のようになってしまったら何科を受診すれば良いのでしょうか？

血管のことは循環器内科？足のことなら整形外科？皮膚が痛んでいるようなら皮膚科でしょうか？

これらの写真はすべて下肢静脈瘤の写真です。このような症状があれば、ぜひ一度形成外科にご相談ください。

### 下肢静脈瘤の症状

主な症状は血管の怒張、足のだるさ、かゆみ、むくみ、こむら返りなどで、治療せずに放置すると、進行して足の皮膚が変色し、しまいには傷ができていつまでも治らなくなってしまう皮膚潰瘍という状態になってしまいます。

命に関わるような病気ではありませんが、スカートや半ズボン履くことをためらったり、こむら返りが頻発する、毎日ガーゼ交換が必要になるなど、快適な生活を送りづらくなります。

### 下肢静脈瘤の原因

静脈は血液を心臓に返す役割をしていますが、足の静脈は重力に逆らって血液を上流に流さなければ

なりません。そのために静脈の中には逆流防止弁があり、血液が下に流れるのを防いでいます。

長い立ち仕事などでこの弁に負担がかかり正常に働かなくなると、血液を上流に流すことができずに足に溜まってしまい、血管の怒張、むくみの原因になります。老廃物の多い静脈血が足に溜まった状態が長く続くと、皮膚が炎症を起こして色素沈着を起こし、最終的には潰瘍になってしまいます。

### 種類

#### クモの巣状静脈瘤：

細い赤～青い血管がクモの巣の様に広がっている状態です。

進行しても潰瘍を形成することはなく、治療は不要です。

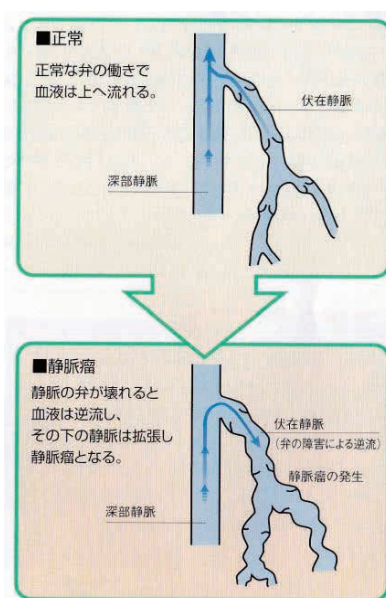
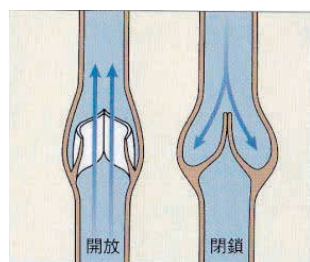
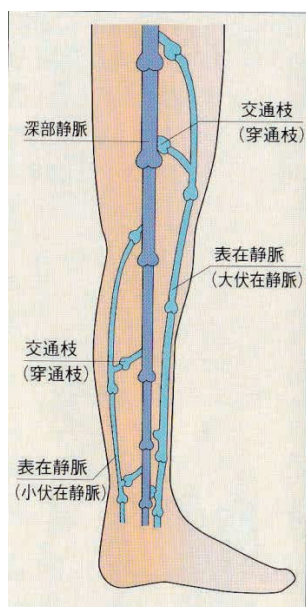
#### 伏在型静脈瘤：

太い血管がボコボコと怒張し、徐々に悪化します。

足のだるさやこむら返りなどが起こるのはこのタイプです。

どの血管が悪さをしているかで大伏在静脈瘤と小伏在静脈瘤の2種類に分けられます。





ALCARE メディカルブックシリーズ 下肢静脈瘤 その原因と治療

## 危険因子

### 遺伝的要素：

もともと静脈の弁が脆い方。  
高齢者、女性

### 妊娠：

出産経験のある女性の2人に1人が発症しているとのデータもあります。

### 立ち仕事：

美容師さん、調理師さんなどの職業病とも言われます。

## 予防

### 弾性ストッキング：

締め付けの強いストッキングを着用することで、大伏在静脈や小伏在静脈という足の静脈を圧迫し、そちらに血液が流れるのを防ぎ、逆流防止弁の負担を減らし、弁が破壊されるのを防ぐことができます。

すでに下肢静脈瘤を発症してしまった場合でも、このストッキングを着用することで症状の進行を予防することができます。

### 運動やマッサージ：

予防としての効果は弱いと思われます。下肢静脈瘤の方で、足のむくみに対しては効果的と考えられます。

## 治療

基本的には手術が必要となります。

### 静脈剥去術：

ストリッピングとも呼ばれます。

弁が働かなくなった静脈を抜いてしまう方法です。

大伏在静脈が原因である場合にこの術式を行います。

再発の可能性は極めて少なく、古くから行われています。

入院の上、全身麻酔もしくは腰椎麻酔を必要とします。

### 血管内レーザー焼灼術：

静脈剥去術と同様、大伏在静脈を流れないように焼いてしまいます。

### 高位結紮術：

日帰り、局所麻酔で治療を行います。

悪さをしている血管を縛って、流れなくするという方法です。

静脈剥去術と比べて再発する可能性が高くなります。

小伏在静脈が原因の静脈瘤に対しては、静脈剥去術を行うと静脈の隣にある神経も損傷する恐れがあるため、高位結紮術を行います。

静脈瘤はエコー検査のみで診断できるので、症状があり気になる方は一度受診してください。